

那須烏山

— No.120 —

2015
September

9

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

いかんべ祭	2
中学生が広島平和記念式典に参列	6
第7回子ども議会	8
情報公開及び個人情報保護制度	10
市職員給与のあらまし	11
まちの話題	12
インフォメーション	14



やまどん ここなす姫 からすまる



あふれる活気(8月23日、いかんべ祭本祭より ※関連記事2~4ページ)



第38回

いかんべ祭

天空の光 伝統の響き

創造の力

いかんべ祭実行委員会(村上美香委員長)による、第38回「いかんべ祭」が、8月22日(土)の夕方から23日(日)の夜にかけて保健福祉センター周辺で開催され、約2万7千人の人数でにぎわいました。
今月号では、盛り上がりを見せた「いかんべ祭」の様子をご紹介します。

LOOP CHILD。

BEAT CRASH大金・宇都宮ジュニア。





2万7千人の人出でにぎわいました

①鳥山小ブラスバンド②Rough Diamond kids③千珠会④矢崎部品民俗舞踊⑤フラダンスフラレア鳥山⑥チャリンコ戦隊姫レンジャー⑦あざらし&麻耶⑧神長乙女会⑨君島玲奈⑩SWINGING HERD⑪藤井ゆみこ⑫すみれクラブ⑬高根沢フラメンコサークル。

今年のいかんべ祭は、80におよぶステージプログラムが生まれ、市内外の文化団体やアーティストなど延べ1800人の出演者で会場を盛り上げました。

100畳以上を誇る県下一の巨大野外ステージでは、ジャズダンスやフラメンコ、日本舞踊などのほか、ヒップホップダンス、バンド、市内小中学校のブラスバンドや吹奏楽など様々なジャンルの踊りや演奏が披露されました。現在、テレビで放映中の「手裏剣戦隊ニンニンジャー」ヒーローショーでは、大勢の親子連れで会場がいっぱいに。握手会も行われ、子どもたちは満足気な笑顔をみせていました。毎年恒例となった「いかんべ八木舞士」が始まると、聴き慣れた音楽に口ずさむ観客もちらほら…。BEAT CRASHや宇都宮アート&スポーツによって躍動感あふれるダンスが披露されました。

また、今年も特別ゲストとして志鳥出身の柴野真理子さんがボーカルを務めるロックバンド「LOOPCHILD」や大沢在住の演歌歌手「藤井ゆみこ」が登場。心に染みわたる歌声で観客を楽しませていました。そのほか、宇都宮市の歴史ある社会人ビッグバンド「SWINGING HERD」のミニコンサートでは、華麗で迫力あるジャズの演奏が会場で響きわたる、見る人の心をつかみました。

第38回いかんべ祭



⑭飛晴⑮オーティム⑯キャラクターが登場⑰人・人⑱手裏剣戦隊ニンニンジャー
 握手会⑲那須烏山消防署による救急車の展示⑳射的に夢中㉑市内の飲食店など㉒6の出店がにぎわう㉓合併10周年の横断幕を持つ市議会議員㉔子どもこしが練り歩く㉕いかんべ七福神㉖嵐山睦会「万灯みこし」㉗会場を清掃するクリーンボーイ&クリーンガール㉘笑顔にあふれる祭となりました。

いかなべ祭の開催に際し、企画から実行まですべて行ったのは、ボランティアを含めた「いかなべ祭実行委員会」です。約4ヶ月かけて準備を行い、祭を終えると翌日からさっそく後片付け。まさに手作りの祭です。来年は、あなたも地域に元気や感動を届けるこの祭に参加し、さらなる祭の発展に貢献してみませんか。

会場内に設置された「いかなべ広場」では、輪投げや射的、那須烏山消防署による救急車の展示など楽しいイベントが盛りだくさん。市内の飲食店や製菓店など26店舗の出店も並び、多くの人でにぎわいました。

2日目、本祭の午後2時から行われた「いかなべパレード」では、市制10周年を祝した横断幕を持った市議会議員を先頭に、南那須中学校の吹奏楽部、実行委員や市長などが仮装した「大金いかなべ七福神」、育成会などによる「子どもみこし」15団体が、クリーンボーイ&クリーンガールのプラカードの先導に続いて、つくし幼稚園から保健福祉センターまでを練り歩きました。

そして午後9時、嵐山睦会の「万灯みこし」が威勢良く練り出すと、祭の最後を締めくくる花火大会がスタート。まさに「天空の光」そのものといえる花火は、夏の終わりを告げるかのように、感動的なファイナルとなりました。

花火大会・盆踊り大会…

地域の夏祭りが盛ん！

「明星池せせらぎ祭り」と「横枕花火大会」

横枕のふれあいの郷づくり協議会（澤村豊純会長）では、8月15日（日）、第11回「明星池せせらぎ祭り」を横枕伝承センター周辺で開きました。

当日は、明星池に放流したマスのつかみ取りや流しそうめんなどのイベントのほか、焼き魚が無料で提供され、地域住民など約100人が祭りをとおして交流を深めました。

同日、旧やまびこの湯駐車場を会場に、横枕青年団（萩原正男横枕花火大会実行委員長）では、第5回「横枕花火大会」を開き、市内外から訪れた約1千200人でにぎわいました。

会場では、午後3時頃から、かき氷早食い選手権、浴衣コンテスト、日野町お囃子会によるお囃子の演奏、横枕いき



上から、流しそうめんに夢中（明星池せせらぎ祭り）／恒例の浴衣コンテスト（横枕花火大会）／横枕の夜空に打ちあがった花火（横枕花火大会）／盆踊りを楽しむ参加者たち（燈花里の盆盆踊り大会）／大勢の観客の中、日頃の練習の成果を披露（西川会夏祭り）。

いきサロンのメンバーによる合唱などのほか、尺八演奏家「福田大輔」演奏会や栃木県住みます芸人「上原チヨ」お笑いステージなど盛りだくさんのイベントで会場を盛り上げました。また、日が暮れる頃には、手持ち花火500本が無料で配布され、多くの子どもたちが楽しみました。

これは、お盆に帰省している人々と地域住民が交流を深めようと毎年開かれています。今年で9回目を迎えました。この燈花とは、ろうそくが燃え尽きた後に灯心の先にできる花の形の塊のことで、これができる縁起がいいといわれています。

00人が訪れました。当日は、同会による日本舞踊のほか、常磐津教室や山あげ保存会芸能部会により、唄や踊り10曲余が披露され、華麗な舞や歌声に観客からは、盛大な拍手が贈られました。公演の間には、浅草道化師コメディアン「ブッチャリン」が会場を盛り上げ、観客の笑いを誘いました。続く、盆踊り大会では、山あげ会館前駐車場に提灯や櫓を設置した特設会場

大桶で地域の交流深める 燈花里の盆盆踊り大会

8月15日（日）、大桶下若衆会柳幸一会長では、地元育成会や体育協会、自治会と協力し、大桶下公民館で「燈花里の盆」と題した盆盆踊り大会を開きました。

西川会夏祭り 子どもから大人まで楽しむ

古き良き夏の風物詩を残そうと、西川会（西川扇土浪代表）では、8月16日（日）、山あげ烏章館周辺を会場に、第6回「西川会夏祭り」を開き、地域住民など約3

の曲に合わせて盆踊りをするなど、子どもから大人まで夏を満喫しました。

地域で見守る体制づくりを！

小地域見守り活動推進セミナー

市社会福祉協議会(丸山真一会長)では、8月21日(金)、南那須公民館で「小地域見守り活動推進セミナー」を開き、地域住民80人が参加しました。

当日は、滋賀県高島市社会福祉協議会地域福祉課の杉本学士さんを講師に、「地域での見守りを通じた住民主体のまちづくり」と題材した講話が行われました。その中では、高島市の住民が行う見守り活動が紹介されま



講話をする杉本さん。

した。杉本さんは、「活動をしている人は、未来の自分の居場所を作るために今から活動をしている人が多い。今のうちにニーズや課題を把握し、活動していくことが大切」と話していました。

また、市内で活動を行う興野自治会「小地域見守り活動委員会」と滝田本郷自治会有志で行っている「ミニ仲良しクラブ」の課題発表も行われ、参加者全員で活動への理解を深めました。



市内で活動を行う団体による課題発表。

災施設に福祉避難所を開設 4施設と協定書締結



各施設と締結を交わす。

市では、社会福祉法人4施設と「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定書」を締結しました。8月19日(木)、24日(月)に締結式が行われ、大谷範雄市長と大和久福祉会、敬愛会、みその聖園ヨゼフ老人ホーム、正州会の4施設が締結書を取り交わしました。

福祉避難所とは、災害時に、障がい者や高齢者など、生活を送るうえで一般の避難所では生活に支障をきたす社会的弱者を受け入れる避難所のことです。今回の協定書締結により、災害などの発生により、社会的弱者の受け入れが必要になった場合に、介護福祉士などのスタッフや、バリアフリーの設備など、受け入れ体制が整備された福祉避難所が開設されることになります。

ABC/R運動の推進と 特別支援教育の理解啓発 市教育講演会を開催

市教育委員会では、8月19日(木)、烏山公民館で「那須烏山市教育講演会」を開き、地域住民や教育関係者など約180人が講演に耳を傾けました。この講演会は、市が取り組む「ABC/R運動の推進」と「特別支援教育の理解啓発」をテーマとして開いたものです。

当日は、国際医療福祉大学教授の畦上恭彦さんを講師に、「毎日の生活

と学びを大切にしたい『共育』とは」と題し、早寝・早起き・朝ごはんの大切さや、子どもたちに対する読み聞かせの重要性、特別支援教育の現状と課題について講演が行われました。畦上さんは、「教育は、子どもに対してだけでなく、大人も一緒に学び共に育っていくことが大切」と話していました。



「共育」のポイントを話す畦上さん。

平和の尊さ、
いのちの大切さ胸に刻む

中学生14人が広島平和記念式典に参列

市では、8月5日(祝)から7日(金)までの3日間、市内2中学校の生徒14人を派遣団として広島県広島市に送り、「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式」に参列しました。これは、これからの将来を担う中学生に戦争の悲惨さや平和の尊さを自らの目で見て認識してもらおうと始まったもので、今年で90回目となりました。派遣先では、式典に参列したほか、平和記念公園や平和記念資料館などを見学しました。

派遣をとおして、当時の様子や広島市に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える原爆ドームを見学し心を打たれた生徒たち。ここでは、貴重な体験をしてきた中学生の感想文を一部抜粋して紹介します。(敬称略順不同)



①原爆ドームを見学した生徒たち ②平和記念資料館で当時の様子を知る ③式典で献花する生徒たち ④厳島神社を見学。

■高田雅人(南那須中3年)

戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて認識することができた。実際に現地を見て、教科書だけでは感じ取れないこともたくさん学ぶことができたので、この経験を周りの友達や家族に伝えていこうと思った。

■宮崎敏大(南那須中3年)

平和の大切さを世界のあらゆる人と共有したいと思った。そのためにも、当時の話を聞いてもらうなどして、70年前に広島で何が起こったのかを知ってもらい、核兵器の廃絶や世界の恒久平和につなげてほしい。

■木下瑠来(南那須中3年)

戦争はしたくない。してはいけない。という想いがより強くなった。今も戦争をしている国の人たちに戦争は得るものよりも失うものの方が何十倍も多い悲しいものだという事を教えてあげたいと思った。

■中山彩奈(南那須中3年)

今もどこかで戦争が行われているかもしれない。「そんな争いはやめて」と言いたい。その一言が平和につながるがいいと思う。これからは、身近な人に広島で学んだことを伝えて

いきたい。

■仲山晴貴(南那須中3年)

式典には、核兵器を保有している、または保有を疑われている8カ国が参列していた。これを機に、核兵器の恐ろしさを学んで、安全に廃棄してほしいと思った。普段から平和のありがたさを感じながら生活したい。

■長谷川冬弥(南那須中3年)

被爆国として核兵器の使用や製造をせず、他国でも同じようになれば、広島や長崎のように苦しむ人たちが無くなると思う。同時に、戦争に必要なものを廃絶すれば一度このようなことが起きなくなると思った。

■岡崎蒼(烏山中学校3年)

これからは、平和を尊重し、平和であることが幸せということをお忘れないようにしたい。しかし、戦争という歴史の記憶は薄れていってしまう。後世に伝えていくことが式典に参加した私たちの役目だと思う。

■阿部将太(烏山中3年)

戦争は嫌だという思いを身近な人と共有する。その小さな平和の輪を世界の人々がつなぐってほしい。武力ではなく言葉や思いによって理解しあえる真の国際平和を目指していきたいと思った。

■平塚麻椰(烏山中3年)

以前は、戦争についてテレビなどの報道を「見たくない」と思っていたが、広島へ行ってからは「見なくてはならない」と思うようになった。戦争の悲惨さや生々しさを見て知ること、今後の取り組みにつながると思う。

■高久朋也(烏山中3年)

原爆ドームなどを見学して、原子爆弾の凄まじい破壊力を感じた。戦争や核兵器が存在しない世の中にするためにできることは、小さなことしかないが、多くの人の力を借りて大きな力にしていきたいと思う。

■磯尻沙(烏山中3年)

戦後70年という節目の今、私たちが若い世代が平和について考えなければいけないと思った。楽しく過ごせている今の環境に感謝をし、当時の人々の思いを受け継ぎながら核兵器廃絶を目指し、たくさんの人々と平和を作っていきたい。

■三浦新太(烏山中3年)

原爆投下から70年が経ってもなお多くの人たちが式典に訪れ、70年前の悲しみや苦しみを乗り越えてきた姿を見て、とても心が痛んだ。過去を繰り返すことなく「平和」が続くことを願いたい。

■永井綾(烏山中3年)

原爆ドームを見たとき「こだけ時間が止まっている」と思った。教科書に載っている写真より、圧倒的な迫力を感じた。私たちが若い世代の人が戦争という過ちを繰り返さないように、語り継いでいきたいと思う。

■坂主朋美(烏山中3年)

70年前の「今日」を、「今」と思った瞬間、怖く、悲しくて胸がとても痛くなった。私たちは、被爆者から話を聞くことができる最後の世代といわれている。過去に学びながら未来を考えていくべきだと強く感じた。

第7回子ども議会

11人の小中学生が議員に

市では、未来を担う小中学生に「市議会の仕組み」や「市の施策」などに実際に触れてもらい、まちづくりに関心をもってもらおうと、8月3日(月)、市議会議場で「子ども議会」を開きました。

今年で7回目となる同議会には、各校代表の小中学生7人、中学生4人が議員として参加。傍聴席で保護者や各校の教諭など多くの関係者が見守る中、大谷範雄市長をはじめ各課の課長など市執行部を前に、子どもの視点から一般質問をしました。

議長は中学生2人が交代で務め、子どもたちは、本番さながらの緊張感の中、議会を体験しました。

なお、参加者と質問内容は次のとお



手をあげて質問をする児童。

りです。(敬称略、順不同)

【小学生】

- 鳥山小6年 小野里春花
・ABC/R運動についてどのようなPRをしているか。また、今後の新たな取り組みはあるか
- 七合小6年 田邊晴夏
・子どもたちが安心・安全に遊ぶことができる施設を作る計画はあるか
- 荒川小6年 津田彩香
・進行する少子高齢化に対してどのような取り組みをしているか
- 江川小6年 熊田晶太
・江川小学校の校舎をどのように利用するのか。また校庭や体育館を市民に開放してもらえるか
- 荒川小6年 谷田悠真
・デマンド交通の現在の利用状況と、今後利用者を増やすためにどのようにしていくか
- 境小6年 大森陽太
・市で、夜間の小児医療ができる体制はつくれないか
- 鳥山小6年 津崎日和
・小中一貫教育、また小中学校教育についてどのような考え、目標を持っているか



緊張しながらも議場で一般質問をする生徒。

【中学生】

- 鳥山中3年 小口桃佳
・どのように山あげ祭の後継者を育成していくか
- 南那須中3年 高田雅人
・ふるさと納税の納付はどのくらいあるのか。また、もっとPRをしたり対象納付額を引き下げればどうか
- 南那須中3年 川上茉耶
・市では、人口減少を防ぐためにどのような対策をしているか
- 鳥山中3年 津崎大和
・JR鳥山線のICカードシステム(スイカ)の導入についてなにか取り組みはしているか

